

2021年11月4日

熊本県知事 蒲島郁夫様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会	共同代表	岐部明廣 緒方俊一郎
7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会	共同代表	鳥飼香代子 市花保
美しい球磨川を守る市民の会	代表	出水 晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会	代表	中島 康

球磨川豪雨災害に関する共同検証を求める提案

昨年7月4日豪雨で、流域で50名の方が命を落とされました。住民は現在、復旧のための道を模索している状態ですが、復旧復興のためには、なぜ豪雨災害が発生したのかという事実の解明がまずなされるべきです。

熊本県は災害後、23地区の26人の区長からヒアリングを行ったとしています。私たちはこの豪雨災害を検証するために、人吉市では165名から浸水時間と浸水深、洪水が流れた方向等の証言や、2000枚以上の写真や映像の入手し、また240名の避難行動の証言を集め、資料として整理し分析しています。洪水被災者の声を聞き、原因の究明なくしては次の洪水への対処を的確に行えないはずで

今回の豪雨では、球磨川、川辺川の合流点直下にある第4橋梁（くま川鉄道）が流木や木材等によりダム化し、橋梁に引っ掛かった大量の流木と滞水した濁流が第4橋梁を破壊し、第4橋梁上流に溜まっていた大量の水が津波のように人吉市街地の上端部（上・下新町）へ一挙に流入し、被害を拡大させました。ところが国や県は、第4橋梁が豪雨災害にどのような影響を与えたのか、一切検証をしていません。

また今回の豪雨で熊本県は、市房ダムの効果ばかりを強調していますが、ダムによる治水には限界があり、特にダムの緊急放流に関しては住民と熊本県の捉え方に相違が感じられます。

住民の疑問を解消するためにも、今後、まずは下記3点に関して、熊本県と住民団体による共同検証を行うことを提案します。

記

1. 豪雨災害で50名の方々お一人お一人がどのようにして命を落とされたのか。避難された方々がどのようにして情報を得、避難行動をとられたのか。今後、どのような対策が求められるのか。
2. 球磨川、川辺川の合流点直下にある第4橋梁（くま川鉄道）が、豪雨災害にどのような影響を与えたのか。
3. 市房ダムの効果や限界、ダムの放流、危険性について。

以上

連絡先	清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
共同代表	岐部明廣 人吉市南泉田町1
事務局長	木本雅己 人吉市九日町93-2 電話 090-1873-4158